



積雪期中央分水嶺(岡山・鳥取)

Vol.3 2015年分

踏査 ゆきんこ隊

協賛 創立20周年記念事業

岡山県山岳連盟 みつがしわ山の会



第45回(最終回)フィナーレ山行マッコウにて

終わるにあたり

ゆきんこ隊の積雪期中央分水嶺（岡山鳥取県境）160km の踏破を無事に終わることが出来ました。振り返れば 2012 年 12 月 18 日に広島鳥取岡山県境の三国山から始め、足かけ 4 年の 3 冬を要しました。あっけない年月の流れですが、よく頑張ったと思います。特に 73 歳の隊長、副隊長にとりましては人生最大最後の檜舞台とさせて貰いました。これはひとえに参加下さった隊員 21 名全員が皆で雪山の楽しさ、厳しさを分かち合ったお蔭だと思います。

又、みつがしわ山の会を始め応援頂いた岳兄諸氏に感謝申し上げます。

本報告文の殆どは週刊ヤマケイ投稿掲載分を少し編集し直したものです。

巻末には読売新聞岡山版掲載記事及び週刊ヤマケイ巻頭の「人と山」に取り上げられたインタビュー記事を載せています。

平成 27 年 4 月

ゆきんこ隊 隊長 船越 仁

(岡山県山岳連盟 みつがしわ山の会会長)

ゆきんこ隊

隊長 船越 仁 (15)

副隊長 角原 覚 (15)

隊員

角原鶴子 (13) 佐々木順栄 (8) 西崎博子 (1)
(以上隊長副隊長含めみつがしわ山の会)

岡本紀美子 (15) (所属なし)

佐々木靖昌 (6) (所属なし)

佐伯 学 (2) (倉敷山の会)

小林祐美 (2) (倉敷山の会)

高田一馬 (3) (みまさか山の会)

岡田至弘 (1) (みまさか山の会)

岡田仁子 (1) (みまさか山の会)

井上美津子 (1) (みまさか山の会)

福田武宏 (2) (所属なし)

柴田幸代 (2) (所属なし)

増田みどり (2) (所属なし)

() 数字は参加回数 (全 15 回)

連絡先：船越 仁

岡山市北区田益 951-53

shipover5353@yahoo.co.jp

URL : <http://funachan.web.fc2.com/>

若杉原生林県境尾根（県境東端）

平成 26 年 11 月 14 日（月）晴れ

行程

駐車場 9 : 24 - 県境尾根 10 : 12 - 若杉峠 10 : 40 - 廃小屋 11 : 18 -
3 県境分岐 12 : 40 - 江波峠 12 : 43 - 三国平 12 : 47 -
天児屋川源流碑 12 : 59 - 峰越峠 13 : 48 - 駐車場 14 : 50

隊員

船越 仁 角原 寛 角原鶴子



この山行は若杉原生林周辺の冬季県境（中央分水嶺）踏破の下見の積りでしたが、実際にはこれ以後行きませんでした。

県境尾根の最初の峠は若杉峠です。やがて、比較的平坦な場所にある 3 県分岐点（岡山・鳥取・兵庫）に到着しました。若杉峠からの小道は真っ直ぐ峰越峠に向かい、T 字分岐の中央分水嶺は直角に江波峠、三国平に向かっています。

下の写真の地点が、私達の目指している積雪期中央分水嶺（岡山鳥取）の東端です。中央分水嶺はここから鳥取兵庫県境になるのですが、私たちは足を延ばし、三国平まで行ってみました。



第31回 若杉原生林～点名若杉～P870

平成26年12月14日(日) 晴れ

行程

若杉原生林駐車場 9:00 - 県境到着 10:10 - 中国自然歩道終点(芦津・吉川越標識) 10:32 - 4等若杉 11:45 - リボン点 870m 14:21 - 迷い先端 14:32 - 道路 15:53 - デポ車 16:02

隊員

船越 仁 角原 寛 角原鶴子 岡本紀美子



この日は今シーズンの初回で、通算では31区間目になります。いつものように下降予定地点に車1台をデポし、もう1台で圧雪道路を出発地点の若杉原生林駐車場まで上ります。

歩き始めて1時間で県境稜線に到着しました。ここから西進します。歩き始めの県境尾根は中国自然歩道の一部なのですが、たった20分でそれも終わりです。

シーズン初めなので仕方ありませんが、雪を被ったネマダリダケは中途半端な倒れ方で、

下は空洞なのです。こんな場所でも役に立つのがカンジキです。トランポリンの上を歩くような感覚です。

今回、雪に埋もれていた4等三角点(点名:若杉1196.1m)を見つけることが出来たのはラッキーでした。既存ルートが全く無い今回のような区間では、予め地形図から幾つかの下山支尾根を準備しておきます。順調に歩を進めた今回は、予定中最西の地点に到達できました。いつもの様に目印にリボンを結んで下山しました。



第32回 段～四行田～志戸坂峠

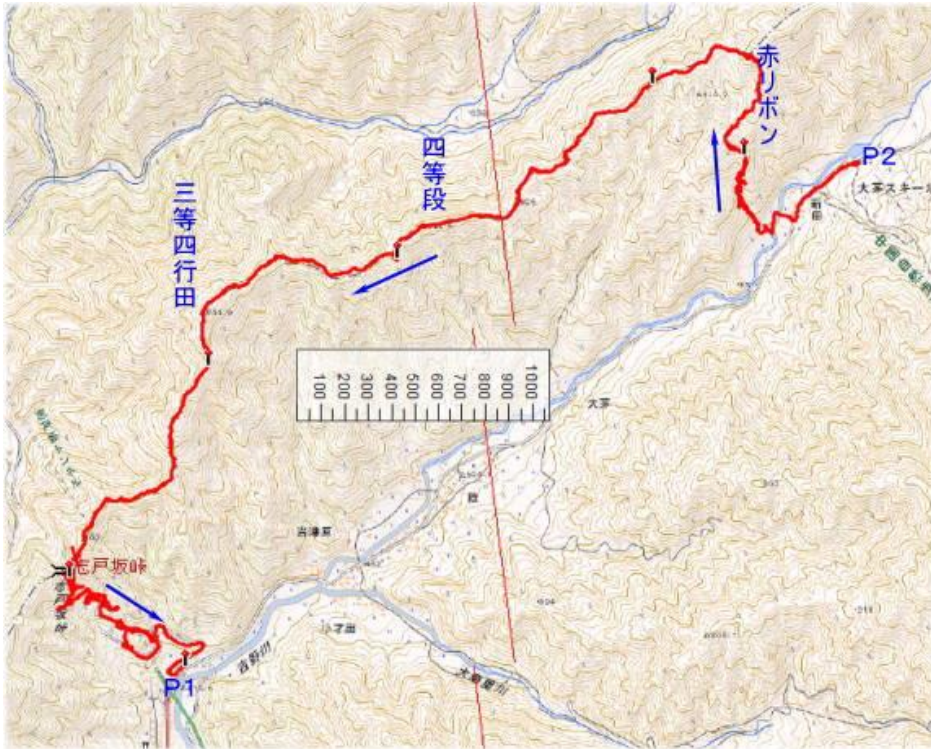
平成 26 年 12 月 18 日 (木) 雪

行程

大茅スキー場 9 : 36 - 県境リボン点 11 : 04 - 段 12 : 16 - 四行田 13 : 21 - 旧志戸坂峠 14 : 25 - P1 15 : 28

隊員

船越 仁 角原 覚 角原鶴子 岡本紀美子



北海道上空には超大型台風並みの低気圧が居座る大寒波の中、何故好んで雪深い県境なんぞに向かうのか？ 今日の日本は昨日より風雪は弱まっています。

県境歩きの醍醐味はルートファインディングにあります。特に登下降の支尾根には最も注意を払います。今日は谷筋から入り、倒木を避けながら少しずつ先日

の尾根に這い上って行きました。谷筋は滝や懸崖に阻まれることが多く、冬季は雪崩の危険が大きいからです。本日はとても順調で、先日の下りより 10 分も早く 1 時間 30 分で結んでおいた赤リボン点に到達しました。

県境稜線に上がるときさすがに風が冷たく、最高がマイナス 5℃でした。4 等三角点段、3 等四行田を経て志戸坂峠に降り立ちました。江戸時代には鳥取・池田藩主が参勤交代に使ったという古い峠です。今日歩いた県境尾根は 3 時間 20 分で約 5 km でした。



第33回 志戸坂峠～深山

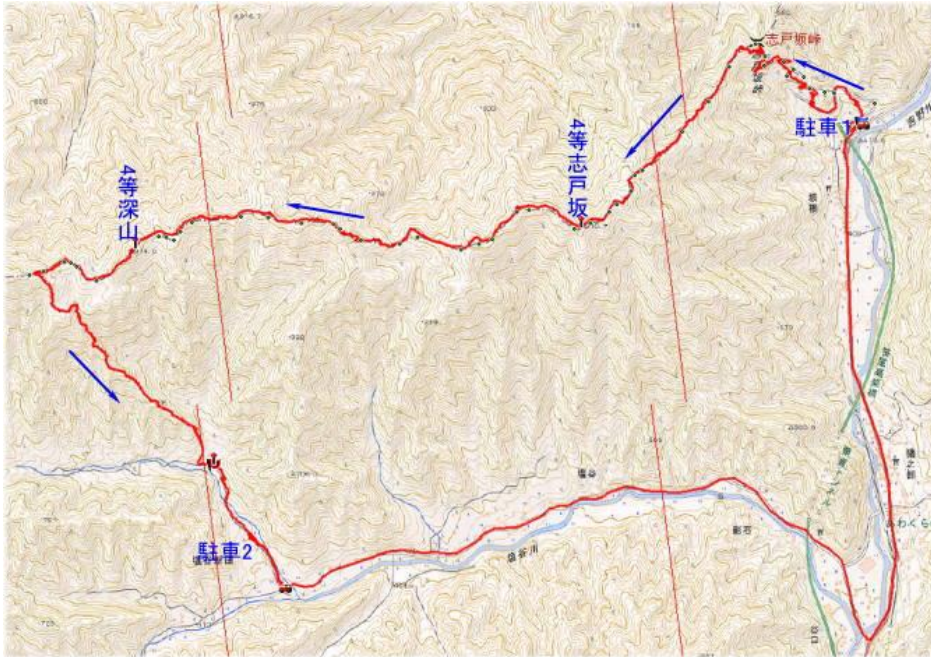
平成27年1月7日(水)雪

行程

志戸坂峠下駐車1 9:00 - 志戸坂峠 10:00 - 三角点志戸坂 11:45 -
三角点深山 14:30 - 下降点P990 - 駐車2 16:55

隊員

船越 仁 角原 覚 角原鶴子 岡本紀美子 佐々木順栄



年末から積もった雪は、思っていた以上に深いです。前回結んだ赤リボンにタッチして、小雪の中を県境杉林から登ります。直ぐにかんじき装着となりましたが、モナカ状なので踏み込みが大きく、交代で進みます。

それでも左手に雪庇の張り出す北西風の強く当たる稜線では締まった場所もあり、最初のピーク4等三角点、志戸坂に到着。GPSを駆使し、執念で三角点を堀出しました。次の三角点は今日の最高点、4等の深山(974.0m)です。ここでも三角点の堀出しに成功です。

次回に繋ぐ効率を考え、また安全な下山支尾根に辿り着くために、今少し西進しておきます。午後3時過ぎに到着した下山ポイントにリボンを結んで、下山です。

この日は県境到達に1時間、5.4kmの県境稜線踏破に5時間15分、デポ車への下山に1時間40分で計7時間55分の行動でした。

